**第１回鳥取県救急医療体制高度化検討委員会（7月15日開催）の概要について**

**資料１**

H27.8.13　鳥取県医療政策課

**１　ドクターヘリ導入の必要性について**

**（１）説明の概要**

|  |
| --- |
| ○ドクターヘリは、概ね半径70km圏内を運航範囲とし、約21分以内に早期医療介入が可能○導入によって、救命率向上及び後遺症軽減に大きく寄与○H26出動実績　豊岡病院ドクターヘリ　1,570件（うち本県66件）島根県ドクターヘリ　　　737件（うち本県 9件）○鳥取大学医学部附属病院ドクターカー出動件数　112件○鳥取大学医学部附属病院にドクターヘリを導入した場合の需要見込350～400件程度／年（うち本県180件程度）⇒中部・西部は鳥取大学医学部附属病院ドクターヘリが、東部は豊岡病院ドクターヘリが主にカバーするイメージ |

**（２）議論の方向性**

①ドクターヘリの単独導入は、ドクターヘリの出動が多い地域と少ない地域の格差の解消（東部は豊岡ドクヘリが多く出動し、中部・西部は島根及び豊岡ドクヘリとも出動件数が少ない。）、広域災害時の相互応援に有効であること、県内にドクターヘリが導入されていれば救命できたであろう事案があること等の理由から、必要であるとの意見で集約された。

②基地病院は、スタッフ確保やヘリポート保有状況等の医療体制の理由から、鳥取大学医学部附属病院が適切であるとの事務局の意見に、異論なく賛同された。

③ドクターカーの東部・中部での運行は、中央病院・厚生病院の医療体制の面から、現段階では難しいとの認識で一致した。

**（３）主な意見**

○鳥取県が要請した公立豊岡病院ドクターヘリの運航件数の約85％は東部消防局からの要請であり、非常に偏っている。県民として同じように税負担をしているのに、行政サービスの地域格差があるので、導入の必要性は大変高いのではないか。（救急ヘリ病院ネットワーク　篠田委員）

○東日本大震災ではドクターヘリが被災地で活躍した。今後想定される首都直下地震・南海トラフ巨大地震等の災害時には、ドクターヘリの被災地での活躍が見込まれる。鳥取県でもドクターヘリで助け合うという発想に立つ必要がある。（救急ヘリ病院ネットワーク　篠田委員）

○公立豊岡病院ドクターヘリは重複要請が多いので、要請に応えられないケースが何件もあった。また、中部の病院から鳥大病院・中央病院へ転院搬送すると、中部管内での救急車の不在時間が３～４時間にもなるケースがある。ドクターヘリを導入してほしい。（中部消防局　三浦委員）

○スキー大会の事故の頚椎損傷の傷病者を約１時間かけてドクターカーで搬送したが、雪道での搬送だったので、傷病者に対する搬送時の振動が非常に負担であった。振動等も考えると、ドクターヘリがあれば傷病者の予後が改善されたと考える。（西部消防局　木山委員）

○解離性動脈瘤の転院搬送の事例などがあるが、これらは10分早く手術室に入れるかどうかが生死を分けることもあるので、転院搬送のためにもドクターヘリは必要である。（鳥取大学医学部　本間委員）

**２　ドクターヘリの導入に当たっての課題について**

**（１）説明の概要**

|  |
| --- |
| ○初期導入経費　約3億円（格納庫・給油設備：約2億円、搭載医療機器等：約1億円）（基地病院ヘリポートは鳥取大学医学部附属病院に整備済み。）○ランニングコスト　約2.3億円（運航委託：約2.2億円、施設・設備維持管理：0.1億円）○基地病院となるための医療体制　フライトドクター8～10名程度。また、フライトナースや救命救急センターの運営に必要な医療職の確保が必要 |

**（２）議論の方向性**

①初期導入経費及びランニングコストの課題について、特段議論はなかった。

②基地病院の医療体制の充実については、鳥取大学医学部附属病院として今後対応するとの見解が示された。

③ヘリポート（場外離着陸場）が少ないので、ドクターヘリ導入に併せ今後整備を検討していただきたい。（東部消防局　村上委員）

**（３）主な意見**

○最終的にはコストの話もあり、鳥取大学医学部附属病院にドクターヘリを導入すればどれくらい救命効果があるのかという理論値も示してほしい。（町村会　森安委員）

○全国的にヘリコプターのパイロットが不足気味である。（救急ヘリ病院ネットワーク　篠田委員）

**３　今後の進め方**

○９月中旬までに２回開催し、導入における課題等について議論を深め、報告書を作成する。

**（参考）鳥取県救急医療体制高度化検討委員会の概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 区分 | 内容 |
| 検討事項 | ドクターヘリの単独導入の必要性と課題及び対応策ドクターカーの運行範囲の拡充の必要性と課題及び対応策　等 |
| 会長 | 鳥取県医師会長　魚谷　純 |
| 設置（告示）日 | 平成27年7月10日　⇒　第1回：7/15、第2回：8/13、第3回：9月 |

◇委員名簿

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 所属 | 職名 | 氏名 |
| 医療関係団体 | 公益社団法人鳥取県医師会 | 会長 | 魚谷　純 |
| 公益社団法人鳥取県看護協会 | 会長 | 虎井　佐恵子 |
| 医療機関 | 鳥取県立中央病院 | 院長 | 日野　理彦 |
| 鳥取県立厚生病院 | 院長 | 井藤　久雄 |
| 国立大学法人鳥取大学医学部附属病院 | 病院長 | 清水　英治 |
| 消防機関 | 鳥取県東部広域行政管理組合消防局 | 消防局長 | 村上　義弘 |
| 鳥取中部ふるさと広域連合消防局 | 消防局長 | 三浦　貴志 |
| 鳥取県西部広域行政管理組合消防局 | 消防局長 | 木山　文也 |
| 行政関係団体 | 鳥取県市長会 | 会長 | 深澤　義彦 |
| 鳥取県町村会 | 副会長 | 森安　保 |
| 学識経験者(救急医療) | 国立大学法人鳥取大学 | 医学部器官制御外科学講座救急・災害医学分野教授兼救命救急センター長 | 本間　正人 |
| 認定NPO法人救急ﾍﾘ病院ﾈｯﾄﾜｰｸ | 理事長 | 篠田　伸夫 |
| 住民代表 | 米子市社会福祉協議会 | 会長 | 後藤　巖 |
| 鳥取県連合婦人会 | 常任委員 | 河本　六美 |
| オブザーバー | 米子市 | 福祉保健部長 | 斉下　美智子 |